

基調講演

演題：富山市におけるコンパクトなまちづくりの進捗と展望

講演者：富山市 副市長 神田 昌幸

富山市を取り巻く課題

- ①人口減少と超高齢社会
- ②過度な自動車依存による公共交通の衰退
- ③中心市街地の魅力喪失
- ④割高な都市管理の行政コスト
- ⑤CO2排出量の増大
- ⑥市町村合併による類似公共施設
- ⑦社会資本の適切な維持管理
- ⑧平均寿命と健康寿命の乖離

持続可能な都市  
に向けて



富山市のまちづくりの基本方針

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり（⇒歩いて暮らせるまちづくり）を実現

お団子と串の都市構造

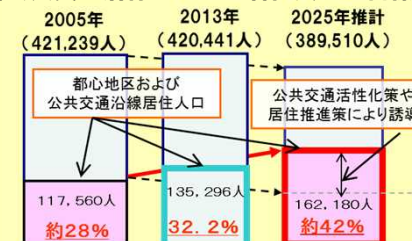
合併前の市街地(地域拠点[徒歩圏]:お団子)を、公共交通(串)でつなぐ



<実現するための3本柱>

- ①公共交通の活性化
- ②公共交通沿線地区への居住促進
- ③中心市街地の活性化

<公共交通沿線における居住人口の目標>



主な取組み

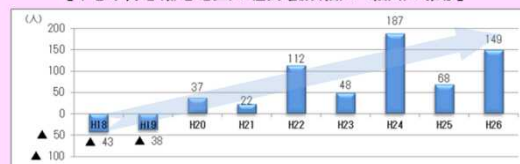
※包括的施策展開による政策目標の達成  
(目標に向けて複数の施策実施、一施策による複数目標への効果)  
※居住地GISを活用した福祉・都市機能の分析による福祉施策等と連携したまちづくり

- ①公共交通の活性化  
ライトレール整備、市内電車環状線化、おでかけ定期券導入、交通系ICカードの導入・多機能化
- ②公共交通沿線地区への居住促進  
地区内での住宅建設業者や住宅建設・購入する個人へ助成
- ③中心市街地の活性化  
グランドプラザ(全天候型多目的広場)の整備  
小学校跡地を活用し、介護予防施設のセンター整備  
自転車市民共同利用システムの導入  
街区公園コミュニティーガーデン事業

施策の効果

- ・中心市街地では、人口が転入超過に転換
- ・公共交通沿線でも、転出超過が減少傾向へ
- ・中心市街地の小学校児童数の増加
- ・公共交通利用者の増加
- ・中心市街地における民間投資の活発化
- ・高齢者の外出機会増加 ⇒ 健康づくりへの寄与 ⇒ 医療費削減
- ・地価の維持 ⇒ 税収(固定資産税・都市計画税)への寄与

【中心市街地(都心地区)の社会増減(転入-転出)の推移】



【公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入-転出)の推移】



意見交換(主な意見)

- ・都市・農村交流、山村での交流が進んでいくと、コンパクトシティと相反する施設の開発が進むと言われている。30年、50年先を見越したときに、コンパクトシティの周辺地域の整備についても連帯性を考えながら集約することを考えないと、切り離された人々が出てくるのではないかと思います。
- ・コンパクトシティというのは、行政や財政、将来のあり方という意味では魅力があり、持続可能という意味でもベターな選択。非常に実効性の高いものを進めているがゆえに、農山村や中山間地の活かし方の解を出し、全国津々浦々の諸課題に対する提案型になっていただきたいと思う。
- ・世界で類を見ない少子・高齢化、人口減少が始まっている時に都市はどうあるべきか、大事な点は、その地域の特性を捉えること。どういう価値観をお互いが持てるか、皆が皆都会に住んでハッピーというわけではない。各々の価値観が持てるような、そういう教育を若い時からすることが非常に大事だと思う。